心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.29
平成25年2月26日

終わりよければすべてよし

６年生は卒業までの登校日が１６日と迫ってきました。クラスでは、背面黒板等に卒業までのカウントダウンがなされ、残り少ない桜小学校での過ごし方について考え、どうしめくくるかについての意識や決意が高まっていることと思います。

「終わりよければすべて良し」ということわざがあります。これまでいろいろな出来事があったと思いますが、最後を良い形で終わることができれば、様々な失敗があったとしても取り返すことができます。人間は失敗が多いほど学ぶことが多く、成長もできると思います。間違ったことをしてしまった人ほど、正しい心を培うことができると考えます。悲しいことが多かった人ほど、人には優しくなれると思います。

残りの１６日間、今一度、自分を見つめ直し、気を引き締めてしっかり過ごしましょう。そうすることで次の学年に夢をもって進んでいけるのです。６年生はいよいよ卒業です。新しい扉を開けて未来への巣立ちに向けて備えていきましょう。

「終わりよければすべて良し」です。

全校朝礼の話より（２／２５）

「心は形に」

みなさんの心は、どこにあると思いますか？　全身に血液を送る心臓は、ここにありますね。（左胸を押さえて）

「優しい心」「温かい心」と言ったときの心はどこにありますか？
胸の辺りかな、おでこの辺りかな、目の辺りかな、きっと、みなさんが、それぞれに「ここ！」と思うところにあるでしょうね。

では、その心は見えると思いますか？　校長先生は、見えると思います。*心は形になって現れてくるのです。*

例えば、靴の脱ぎ方です。校長先生が時々、みなさんの靴箱の横を通ったとき見ていますが、きちんとかかとを揃えてしまってある靴があるかと思うと、かかとが離れ離れだったり、逆になっていたり、中には床に落ちたりしている靴もあります。

黙ってそれらを見ていると、靴を脱いだ時のその子の心の様子が、校長先生に伝わってきます。きちんと揃ってしまっている靴からは「この子は、丁寧に揃えようという気持ちをもって、靴をしまったんだな。気持ちが落ち着いているな」ということが想像されます。

その反対に、揃っていない靴からは「この子は、朝、家を出るとき、兄弟けんかでもして嫌な思いで学校に来たのかな」とか「親に叱られて、暗い気持ちで学校に来たのかな」とか「他のことに気をとられていて、あわてていたのかなあ」などということが伝わってきます。

つまり、*その時、その時の「自分自身の注意や思い」が、心となって、「靴の脱ぎ方」という形になって現れるのです。*

学校の靴箱での靴のしまい方、家の玄関での靴の脱ぎ方、トイレでのスリッパの脱ぎ方など、どれも一つ一つ考えてみると同じようなことが言えます。最近、学校のトイレのスリッパの脱ぎ方、トイレの使い方があまりよくないようです。これも、みなさんの心の現れです。

養護教諭の半田先生や浅川先生が校内を見回られたときに、揃えていてくれます。

では、もし、隣の靴箱の友だちの靴が揃っていなかったり、トイレのスリッパがそろっていなかったら、どうしましょう？

その時は、黙ってそっと揃えてあげましょう。きっと、その心は相手に伝わり、「ありがとう」の心にこだまする思います。そして自分自身の心も温かくふくらませます。